

今月の読書フォーラムにはたくさんの方にご来場いただきありがとうございました！私たちもとっても楽しむことができました！

さて、秋も深まってきた今月、誰かに手紙を書いてみるというのはいかがでしょうか？この本にでてくるキリンみたいに……。

『ぼくはアフリカにすむキリンといます』

岩佐 めぐみ／作 高畠 純／絵 偕成社 2001年 1050円 よみもの

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★★ 小高学年★★☆ 中学生☆☆☆

高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

「ゆうびんはいたつはじめました。」

というペリカンの作ったポスターをみたキリンは、手紙を書いてみることにします。地平線のむこうに住むだけかにあてて。

「地平線のむこうにすむきみへ

ぼくはアフリカにすむキリンといます。ながい首でゆうめいです。

きみのことをおしえてください。

キリンより」

この手紙はペリカンからアザラシの手をへて、ペンギンへ届きます。手紙をもらったペンギンはこんな返事を書きました。

「キリンくん

ぼくはクジラ岬にすむペンギンといます。

ぼくはきみの手紙ではじめて首というものを知りました。

ぼくには首がないのでしょうか？

それともぜんぶ首なののでしょうか？

クジラ岬 ペンギンより」

こうして、キリンとペンギンの文通がはじまります。キリンももちろんペンギンというものを知らなかったのも、もし、アフリカの草原でキリンがペンギンのまねをすることができたら、ペンギンに会いに行きます。だから、もっときみのことをおしえてください。という内容の手紙を書くのですが、キリンがまねをしたペンギンって一体どんな感じなんでしょう？！

<子どもに手渡すときのポイント>

絵や文字の分量、文章の書き方などはちょう中学年の子どもたちに勧めたい本です。ですが、主題は自分探しでもあるので、少し読書が苦手な高学年の子にも手渡してみてもいいでしょうか？

この本はシリーズになっていて、

『わたしはクジラ岬にすむクジラといます』

『オットツ島のせいちゃん、げんきですか？』

『おいらはコンブ林にすむプカプカといます』

とありますので、気に入った子にはぜひこちらも勧めてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館 重村 さやか